
俺と刑事と赤ちゃんと

国土無双

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と刑事と赤ちゃんと

【Nコード】

N6269M

【作者名】

国士無双

【あらすじ】

部屋に忍び込んだ赤ちゃんと何かすごい話。

「では、話を進めようか」

「はい」

「君は、この子を誘拐ゆうかいして、性的暴行せいてきぼうこうをしようとしたんだな？」

「違います！何度言ったら分かるんですか！僕は小さい子には興味きうみはありませんし、そんな特殊とくしゆな性癖せいへきは持ち合わせてませんっ！」

「……君ねえ、そんなに必死ひっしになったら逆に怪あやしまれるよ。ネタはもう上がってんだからさあ。早く吐はいちまいな、楽になるぜえ」

いつの時代の警察官けいさつかんだよ、と思ったが口にしないでおう。

大体、その子が僕の部屋に居なかつたら無実むじつの罪つみを着せられずに済んだのに…

これだから小さい子は嫌いなんだ。

「じゃ、裁判さいはんにでもかけてみるんだな。今日のところは釈放しやくはふだが、次何かをやらかしたらタダじゃ済まさんぞ。じゃあな」

「はあ…すみません…」

ギイイ…と重そうな扉が閉まつた。

僕も早く出てしまおう。

＊

＊

………

「…何だこれは」

目の前には散らかった六畳間ろくじょうま。
と、子供。

「どちらさまで？」

「あー！起きたー！おはようございましゅ」

「…おはようございます…どちらさまで？」

「えー？わたしー？わたしはぎおんこずえ、3歳祇園栢でしゅ」

「…えらいねー。自己紹介どうも。…親御おやういさんは？」

「おやごお？何それー」

「お母さんは？お父さんは？」

「お母さんもお父さんもおしごと。だから、お家をぬけだしてきたの」

「…おおーっ…こりゃとんだじゃじゃ馬うまひめ姐だぜ。
処理速度しりそくそくが追いつかねえよ。」

メモリが少ないのか。

よし、いい機会だ。脳内メモリのうないを買い換えよう。

「お家の電話番号でんわばんごうは？」

「ごーごーよんにーはちさんでしゅ」

「へーへー」

55 - 4283つと…

ブルルル…ブルルル…

ガチャ

「あ、もしもし、水門みとですけど、実は、お宅の娘むすめさんを…」

『おかけになった電話番号でんわばんごうは、現在んざい、使われておりません。もう一度確認ちんかくにんして、再度、おかけ直し下さい…』

…騙だまされた…

というより、たかが3才児さいじが家の電話番号でんわばんごうを知っている訳が無いじゃないか。

はあ…徒勞とらう…

電話帳でんわちようはつと…

俺おんなは本棚ほんだなに向かい、電話帳でんわちようを探す。

あった。

1年こうしんほど更新でんわちようしてない電話帳。

祇園：ぎ：一件しかねえ。

分かりやすっ！

53 - 7284…

全然違うじゃねえか！

プルルル：プルルル：

ガチャ

「あ、もしもし、水門ですけど、実は、お宅の娘さんを…」

「え！？梢が！？父さん！早く警察に連絡を！」

「おう！待ってる！」

「え！？ちよ、ちよっと！」

「電話番号の保存をしとかないと…53 - 7322…あら、意外と近場ねえ」

「ちよ！奥さん！それ誤解だつて！」

「ふふふ…観念しなさいこの誘拐犯め！年貢の納め時よ！」

「住民税もろもろはちゃんと払ってます！だから通報はやめっ！」

「もう遅いわよ。父さんが連絡取っちゃったから」

「俺の人生が…」

「母さん！警察って何番だったっけか？」

「もう！118番よ！父さん、バカになっちゃったんだから…」

「お前もバカだよ！110だよ！夫婦揃って漫才でもやってんのか！」

「ふふ…父さん！110だつて！親切な誘拐犯さんが教えてくれたわ〜！」

「しまった！ついツッコミ本能が…」

「じゃあね、親切な誘拐犯さん」

ガチャ

ツ…ツ…

畜生！切られた！

しかもあのババア、最高に性質が悪いよ！

ああ…これで俺の人生はドロドロ間違いなした。

「だいじょうぶでしゅか？ おかおが**顔青**あおいでしゅよ？」

「お前のせいだよ！」

「ふわっ！ びっくりしました…」

「何でこんな所にいるんだよ！ お前のせいで俺の人生は崩れちまつたよ！ どうしてくれんだよ！」

俺は咄嗟に胸ぐらを掴んでしまった。

それが、仇となったらしい。

最悪なタイミングで、警察前衛部隊が強行突破を決行した。

「手をあげる！ 然もないと……… お前…誘拐だけが目的じゃなかったのか！？」

「ちっち違います！ 事の成り行きで！」

「お前がそうなるように成り行かしたんだろ？ 早く来い！」

「嫌です！ 僕は犯罪なんて犯してません！」

「重犯罪だよ！ 十二分に！ そういうのは後から大人のひとやらせてあげるから！ 早く来い！」

「嫌ですうううう！」

「だああ！ しつこい！ おいお前等！ 強引に連れていけ！ 重症だ！」

『アイアイサー！』

「ほら、飲め」

「何を…んくっ！」

「あと30分もすれば眠くなるだろう」

「睡眠薬？」

「そつだ。さすがにまだ眠くはならんか…」

「流石にそれは…ん？ 何だ？ 急に眠気が…」

「どんだけ即効性なんだよ…」

＊

＊

カン…カン…

「ん…」

「目は覚めたか」

「ええ…一応は。最悪の目覚めですが」

「それは皮肉か？」

「半分は。というか、ここ、どこです？」

「一般的には取調室と言われる取調室と言う所だ」

「それって取調室なんじゃないですか…精神的に元気が無いんですから突っ込ませないで下さいよ…」

「じゃあ、突っ込む元気が戻ってきたところで、取調べを始めようか」

「だから元気は無いんですって…絶対嫌がらせじゃないですか」

「ぶっっちゃけ、君はさっきの子に×××をしようとしたんだね？」

「ぶ、ぶっっちゃけ過ぎですよ！しかもしようとしてません！」

「じゃあ何で誘拐したんだ？」

「しようとしてした訳じゃないですし、してません」

「ほう、その心は？」

「朝起きたら、部屋に居ました」

「…警察ナメンのも大概にしるよコラ」

「これが事実なんだから仕様が無いじゃないですか。最新の鑑識の技術で何とかならないんですか？もしそれで無実が立証されたら慰謝料一千万円はくだらないですよ」

「もし、本当にそうだったならな。それくらいは出してやろう」

「約束ですよ」

「ああ、分かった。男に二言は無理」

「警部！大変です！只今、彼の無実が立証されました！」

「何…だと!？」

「鑑識の調査結果によると、女の子の入室時間が8時で彼の起床時間より早かったということです！」

「…そんなバカな…」

「おっさん、約束は約束だぜ？」

「契約破棄は…出来ないか？」

「…出来るわけねーだろ！俺がどれだけ濡れ衣着せられたかわかったんのか！？ちゃんと払えよな！」

「わ、分かった。部下に振込を命じておく。口座番号は？」

「114-3991だ。覚えとけよ？」

「ああ。バッチリだ」

怪しさ臭プンプンなんだが…

「じゃ、釈放ってことで。じゃな」

「くそっ！若造相手に一杯食わされた！」

…お前の思い込みのせいだろうが…

*

*

「ふう…久しぶりの太陽の日差しだ…？」

無事事件を解決して、やっと外に出られた。

「学校もサボっちったし、あと半日何するかな」

…寝よう。

いろいろ大変で6時間も寝てないからな…

疲れたし。

そうだな。それが一番いい。

勝手に納得し、俺は家路についた。

「あーあ、今日は大変だった…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6269m/>

俺と刑事と赤ちゃんと

2010年10月10日22時39分発行